

## 〔編集後記〕

第93巻第5号では症例報告が4編（天海先生，西田先生，川名先生，間宮先生），また高野先生からのエッセイ，学会2編（整形外科例会，精神医学例会），関根先生からの雑報，そしてOpen access paperとしてOriginal paper 1編（中村先生），Case report 2編（井上先生，國松先生），そして第八回千葉医学会賞1編（平原先生）が掲載されています。

4報の症例報告はいずれも消化管外科領域からの報告です。天海らは，直腸癌の子宮浸潤による子宮留膿腫が破裂したことによる腹膜炎という緊急性の高い病態に対し，洗浄ドレナージ・人工肛門増設術を行い，二期的に根治切除術を施行しています。過大侵襲とならない適切な術式を選択することで治癒切除を可能にした症例報告です。次に，胃捻転症に対し侵襲の低い腹腔鏡下胃固定術を施行する報告例が増加している一方，技術的に難度が高いことが問題となっている中で，西田らはEndocloseを用いて体外結紮により腹壁全層と固定する方法を選択することで手技を容易にした報告をしています。川名らは，偽性アルドステロン症による麻痺性イレウスの患者に対し，カリウム補正により全身状態を改善したのち，S状結腸癌・S状結腸過長症に対して腹腔鏡下S状結腸切除を施行し，結腸過長症を合併していても鏡視下切除を施行し得た症例の報告をしました。間宮らは，外傷性穿孔に対しても，全身状態が落ち着いていれば診断的腹腔鏡を行い，もし損傷が軽度であれば引き続き腹腔鏡下に根治術を行うことを提言しています。いずれも消化管外科における高度な治療を低侵襲に施行した貴重な報告であり，今後の治療選択の一助となればと思います。

Open access paperでは，中村らはOriginal paper

として，大腿骨頭壊死症に対する体外衝撃波療法（ESWT）の安全性と有効性に関して，第1相臨床試験の結果を報告しています。ESWT群と対象群，それぞれ28股関節で比較し，ESWT群の安全性と有効性を証明したもので，是非さらなる解析を進めていただきたいと思います。井上らは乳癌術後胸椎転移の症例，國松らは完全房室ブロックを伴う限局的な心筋炎を呈したリウマチ熱の症例を，それぞれCase reportしています。前者は罹患椎体をen blocに摘出したのち，胸腰椎港湾増悪に対し，脊髄障害の発生の可能性を鑑みて追加固定術を施行した報告で，当初の上下2椎体の固定では不十分であった可能性，術前検討の重要性を示しています。後者は，完全房室ブロックを呈するリウマチ性心炎は稀な中で，これまで報告のない限局的な心筋炎所見を呈した症例を報告したもので，心臓MRIの有用性を示唆したものです。いずれも英文での報告であり，貴重な経験が広く共有されることを願います。

2016年の第八回千葉医学会賞を受賞された免疫発生学の平原潔先生は，CD4陽性T細胞の機能形成に関与する因子に焦点を当てた総説を寄せていただきました。1型糖尿病や気管支喘息など多くの免疫関連疾患の発症に関与する転写因子など，CD4陽性T細胞を介した免疫恒常性の維持機構の解明は，様々な難治性疾患に対して新たな治療法を開発する重要な手がかりとなるもので，今後のさらなる研究の発展が期待されます。

いずれも貴重な興味深い報告です。今後も和文，英文を問わず，千葉医学雑誌を通じ広く発信していただければと思います。

（編集委員 金田篤志）